

全国大豆畑トラスト交流集会「新庄宣言」

1998 年 5 月に 8 ヶ所で始まった大豆畑トラストは、12 月の段階で北は山形から南は広島まで全国 15 ヶ所に拡大していることが判明した。このことは大豆畑トラストが生産者・消費者双方から熱い期待をもって受け止められていることを示している。

味噌、醤油、納豆、豆腐……。日本の食文化は、大豆なしには存在しえない。ところが、日本の大豆自給率はわずか 3 %。この事実を前に、愕然としない人はいないだろう。昨年度わが国に輸入された大豆は約 500 万トン。その半分以上が遺伝子組み換え大豆だったとみられている。しかもそれらは表示されることなく、大豆加工食品の中に混入している。われわれは気づかぬままに、日々、遺伝子組み換え食品を食べさせられているのである。このことに対する消費者の不安は大きい。

大豆畑トラストはこうした状況を打破るべく計画され、実施された。初年度の取り組みによって、私たちは確かな手応えと次年度に活かすべき多くの教訓を得た。その教訓をもとに、私たちは自信と期待をもって全国の皆さんに呼びかける。

農家のみなさん

まず自分の土地に大豆の種をまいていただきたい。難しいことではない。30 年前、40 年前まではどの農家もやっていたことである。収穫した大豆は自家消費し、残りはしかるべき流通に乗せればよい。

消費者のみなさん

国産大豆、ならびに国産大豆を使用した製品を優先的に購入していただきたい。これが何よりも大豆生産者に対する励ましとなる。やむを得ず輸入大豆を使っている商品を購入する場合は、遺伝子組み換え大豆でないことを確認して購入してほしい。これは遺伝子組み換え種子を販売している企業に打撃を与える。

大豆加工品製造業界のみなさん

まず優先して国産大豆を使用していただきたい。輸入大豆を使用する場合は、非遺伝子組み換え大豆を使用していただきたい。大豆自給率向上のカギはあなた方が握っているといっても過言ではない。

穀物流通業界のみなさん

国産大豆の産地を育成していただきたい。心ある生産者は全国にいるはずである。さらに国産大豆の市場・流通を確立していただきたい。国産大豆を求める消費者は全国にいるはずである。あなた方にはぜひ両者をつなぐ架け橋になっていただきたい。

農協、農業試験場をはじめとする農業機関のみなさん

大豆生産農家、これから大豆栽培を始めようとしている農家に対して全面的協力を惜しまないでいただきたい。農家あってこそ農協であり、農協あってこそ農家であるという本来の姿を見せていただきたい。

農林水産省をはじめとする関係機関のみなさん

大豆自給率向上のために、いまある奨励策を堅持し、さらに充実させていただきたい。これなしに大豆自給率の向上は価格など困難な問題に直面せざるをえない。大豆自給率低下の責任のかなりの部分はあなた方にあり、安全・安心な国産大豆を供給する責務もまたあなた方にある。

いま私たちは確信をもって将来を語ることができる。

次年度、大豆トラスト地は今年度を倍する勢いで広がるだろう。各トラスト地の会員の数もまた今年度を倍する勢いで拡大するだろう。

トラストの栽培品目は、大豆に続いて、なたね、とうもろこしなどに広がっていくだろう。

トラストが縁となって、農村を訪れる人が増え、農村・農業の持つ価値を再認識する人が増えるだろう。

こうした確信に支えられて、私たちは前へ進んでいく。

1999 年 2 月 14 日

全国大豆畑トラスト新庄交流集会 参加者一同